

令和7年度病害虫発生予察予報第11号（令和8年2月）

令和8年2月5日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 灰色かび病 菌核病 うどんこ病 黄化えそ病 退緑黄化病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>やや多(中西、西)</u> 、平年並(中央) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、少(西) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、少(西) <u>多(西)</u> 、平年並(中西)、少(中央) <u>やや多(中西)</u> 、平年並(中央)、やや少(西) <u>多(県下全域)</u> <u>やや多(中西)</u> 、平年並(西)、やや少(中央) <u>多(中西、西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u>
促成ナス	灰色かび病 うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中央、西)</u> 、少(東) <u>多(中央、西)</u> 、少(東) <u>多(西)</u> 、やや少(中央)、少(東) <u>多(西)</u> 、少(東、中央) <u>やや多(西)</u> 、少(東、中央) <u>多(西)</u> 、平年並(東)、やや少(中央)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 、平年並(中央) <u>やや多(中西)</u> 、やや少(東)、少(中央) <u>多(東)</u> 、 <u>やや多(中央、中西)</u> やや少(中央)、少(東、中西) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、平年並(東)
促成トマト	灰色かび病 葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 少(中央) 少(中央) <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u>

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村

県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村

県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町

県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村

なお、野菜は「土佐市」を中心部に入れています。

I 気象予報(高松地方気象台1月29日発表)

1月31日から2月28日までの天候見通し

<予想される向こう1か月の天候>

昨年11月中旬から低気圧の影響を受けにくく、降水量の少ない状態が続いています。今後も低気圧の影響を受けにくいため、向こう1か月の降水量は少ないと予想されます。また、日照時間は平年並が多いでしょう。平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率40%です。2週目は平年並の確率50%です。3~4週目は平年並の確率40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1か月	四国地方	気温	30	30	40
		降水量	50		30 20
		日照時間	20	40	40

<気温経過の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	20	40	40
2週目		20	50	
3~4週目		30	40	30

<予報の対象期間>

1か月：1月31日(土)～2月28日(土)

1週目：1月31日(土)～2月6日(金)

2週目：2月7日(土)～2月13日(金)

3~4週目：2月14日(土)～2月27日(金)

II 病害虫発生予想

1 促成キュウリの病害虫

1) べと病

予想 発生量：やや多(中西部、西部)、平年並(中央部)

根拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部と西部で平年よりやや多く、中央部で平年並であった。発病程度は西部で平年より高く、中央部、中西部は平年以下であった。
- (2) 例年、2月はいずれの地域においても1月と同程度の発生が見られる傾向にある。
- (3) 本病は20℃前後、多湿条件下で発病が多くなる。2月の気温はほぼ平年並、降水量は少ないと予想されていることや、発生状況から現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。

2) 灰色かび病

予 想 発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、少（西部）

根 拠

- (1) 1月の調査では、中央部、中西部で発生が見られ、発生面積は中西部で多く、中央部で平年並であった。発病程度は両地域とも平年並であった。
- (2) 例年、2月は中央部、中西部では発生が増加し、西部では1月と同程度の発生が見られる傾向にあり、中央部、中西部での発生は増加し、西部でも発生が見られ始めると考えられる。

対 策

- (1) 換気などによりハウス内湿度の低下に努めるとともに、発病した果実や茎葉はほ場外に持ち出して処分する。

3) 菌核病

予 想 発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、少（西部）

根 拠

- (1) 1月の調査では、中央部、中西部で発生が見られ、発生面積は中西部で多く、中央部で平年並であった。発病程度は中西部で平年より高く、中央部で平年並であった。
- (2) 例年、2月はいずれの地域においても発生が増加する傾向にある。
- (3) 本病の感染の適温は15~21°Cと低い。2月の気温はほぼ平年並、降水量は少ないと予想されているが、例年の発生状況から中央部、中西部での発生は増加し、西部でも発生が見られ始めると考えられる。

対 策

- (1) 発病果実や茎葉は菌核を形成する前に除去し、次作の伝染源を少なくするとともに、換気や加温によるハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病履歴のあるほ場では、7日間隔で数回予防散布を行う。

4) うどんこ病

予 想 発生量：多（西部）、平年並（中西部）、少（中央部）

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は西部では平年より多く、中西部で平年並、中央部で少なかった。発病程度は中央部で高く、中西部、西部で平年並であった。
- (2) 例年、2月は中央部、中西部では1月と同程度の発生が続き、西部では発生が増加する傾向にある。
- (3) 2月の降水量は少ないと予想されていることや、例年の発生状況から西部では発生が増加し、中央部、中西部では現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発生が多くなる。多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。薬剤によっては、散布後も病斑の見た目が変化せず防除効果がわかりづらい場合があるため、防除後に展開した葉の発病の有無で防除効果を判断する。

5) 黄化えそ病

予 想 発生量：やや多（中西部）、平年並（中央部）、やや少（西部）

根 抱

- (1) 1月の調査では、県下全域で新たな発生が見られ、発生面積は中西部で平年並、中央部でやや少なく、西部で少なかった。発病程度はいずれの地域も平年以下であった。
- (2) 1月の調査では、媒介虫であるミナミキイロアザミウマの発生は県下全域で確認されている。例年、いずれの地域も2月はミナミキイロアザミウマの密度が上昇し、発病が増加する傾向が見られることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋却などにより処分する。

6) 退緑黄化病

予 想 発生量：多（県下全域）

根 抱

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積はいずれの地域も平年より多く、発病程度は高かった。
- (2) 1月の調査では、媒介虫であるタバココナジラミの発生は県下全域で確認されている。例年、2月には中央部では発生が増加する傾向にある。中西部、西部ではわずかに発生がみられる程度である。これらのことから、中央部では発生が増加し、中西部、西部では現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。

7) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多（中西部）、平年並（西部）、やや少（中央部）

根 抱

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年並、西部でやや少なく、中央部で少なかった。発病程度は、いずれの地域も平年以下であった。
- (2) 例年、2月はいずれの地域も発生が増加する傾向にあり、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。薬剤防除の際は、かけ残しのないようていねいに散布し、特に上位葉は重点的に実施する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、開口部のネット被覆(0.4mm目以下)や天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

8) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中西部、西部)、やや多(中央部)

根 抱

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部、西部で平年より多く、中央部でやや多かった。発生程度は、中西部、西部で平年より高く、中央部で平年並であった。
- (2) 例年、2月は中西部では発生が増加し、中央部、西部では1月と同程度の発生が続く傾向にあることから、中西部では発生が増加し、中央部、西部では現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は上位展開葉に産卵するので、薬剤防除の際は、かけ残しのないようていねいに散布し、特に上位葉は重点的に実施する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、開口部のネット被覆(0.4mm目以下)や天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) 灰色かび病

予 想 発生量：多(中央部、西部)、少(東部)

根 抱

- (1) 1月の調査では、中央部、西部で発生が見られ、発生面積は両地域とも平年より多かった。発病程度は西部で平年より高く、中央部で平年並であった。
- (2) 例年、2月は東部、中央部では発生が増加し、西部では1月と同程度の発生が続く傾向にあることから、中央部では発生が増加し、西部では1月と同程度の発生が続き、東部でも発生が見られ始めると考えられる。

対 策

- (1) 換気などによりハウス内湿度の低下に努めるとともに、発病した果実や茎葉はは場外に持ち出して処分する。

2) うどんこ病

予 想 発生量：多(中央部、西部)、少(東部)

根 抱

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部、西部で平年よりも多く、東部で平年より少なかった。発病程度は中央部、西部で平年より高く、東部で低かった。
- (2) 例年、2月はいずれの地域でも1月と同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 2月の降水量は少ないと予想されていることや、発生状況から、いずれの地域でも現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多(西部)、やや少(中央部)、少(東部)

根 拠

- (1) 2月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で平年より多く、中央部でやや少なく、東部で少なかった。発生程度は西部で平年より高く、東部、中央部で低かった。
- (2) 例年、2月はいずれの地域も1月と同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 2月の気温はほぼ平年並、降水量は少ないと予想されていることや、発生状況から現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病は25°C前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。
- (3) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) すすかび病

予 想 発生量：多(西部)、少(東部、中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、中央部、西部で発生が見られ、発生面積は西部で平年より多く、中央部で少なかった。発生程度は両地域とも平年以下であった。
- (2) 例年、2月は東部、西部で発生が増加し、中央部では1月と同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 2月の気温はほぼ平年並、降水量は少ないと予想されていることや、発生状況から西部では発生が増加し、中央部では1月と同程度の発生が続き、東部でも発生が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 本病は25°C前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。
- (3) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多(西部)、少(東部、中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で平年より多く、東部、中央部で少なかった。発生程度は西部で平年より高く、東部、中央部で低かった。
- (2) 例年、2月は気温の低下やタバコカスミカメなどの天敵の増加に伴い、中央部では1月と同様に少程度の発生が見られ、東部、西部では発生が減少する傾向にあることから、中央部では1月と同程度の発生が続き、東部、西部では減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。
- (2) 天敵類の密度が低いほ場では、追加放飼を検討する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(西部)、平年並(東部)、やや少(中央部)

根 抱

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で平年より多く、中央部で平年並、東部でやや少なかった。発生程度は中央部、西部で平年より高く、東部で低かった。
- (2) 例年、2月は東部では発生が増加し、西部では1月と同程度の発生が続き、中央部では減少する傾向にある。
- (3) 2月の平均気温はほぼ平年並と予想されていることや、例年の発生状況から東部では発生が増加し、西部では1月と同程度の発生が続き、中央部では減少すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
- (2) 天敵類の定着が遅れているほ場では、追加放飼を検討する。

3 促成ピーマン、シットウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：多(中西部)、やや多(東部)、平年並(中央部)

根 抱

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は東部、中西部で平年よりやや多く、中央部で平年並であった。発病程度は東部で平年よりも高く、中央部、中西部で低かった。
- (2) 例年、2月は中西部で発生が増加し、東部、中央部では1月と同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 2月の降水量は少ないと予想されていることや、発生状況から中西部で発生が増加し、東部、中央部では1月と同程度の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) 斑点病

予 想 発生量：やや多(中西部)、やや少(東部)、少(中央部)

根 抱

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年並、東部でやや少なく、中央部で少なかった。発生程度は、いずれの地域も平年以下であった。
- (2) 例年、2月は中西部で発生が増加し、東部では1月と同程度の発生が続き、中央部では減少する傾向にある。
- (3) 2月の気温はほぼ平年並、降水量は少ないと予想されていることや、例年の発生状況から中西部では発生が増加し、東部、中央部では現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病は25°C前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。

- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。
- (3) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多(東部)、やや多(中央部、中西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は東部で平年より多く、中央部、中西部でやや多かった。発病程度は、東部、中西部で平年より高く、中央部で低かった。
- (2) 例年、2月はいずれの地域も1月と同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 2月の気温はほぼ平年並、降水量は少ないと予想されていることや、例年の発生状況からいずれの地域も現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病は25°C前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。
- (3) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや少(中央部)、少(東部、中西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、中央部で発生が見られ、発生面積、発生程度ともに平年並であった。
- (2) 2月の気温はほぼ平年並と予想されていることや、例年、2月はいずれの地域でも減少する傾向にあることから、いずれの地域でも発生は減少すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。
- (2) 天敵の定着が遅れているほ場では、追加放飼を検討する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中西部)、やや多(中央部)、平年並(東部)

根 拠

- (1) 1月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年より多く、中央部でやや多く、東部で平年並であった。発生程度は中西部で平年より高く、東部、中央部で低かった。
- (2) 例年、2月は中西部では発生が増加し、東部、中央部では1月と同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 2月の気温はほぼ平年並と予想されていることや、例年の発生状況から中西部では発生が増加し、東部、中央部では現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
- (2) 天敵の定着が遅れているほ場では、追加放飼を検討する。

4 促成トマトの病害虫

1) 灰色かび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 抱

- (1) 1月の調査では、発生面積は平年より多く、発病程度は高かった。
- (2) 例年、2月に発生が増加する傾向にあることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 換気などによりハウス内湿度の低下に努めるとともに、発病した果実や茎葉はほ場外に持ち出して処分する。

2) 葉かび病

予 想 発生量：少(中央部)

根 抱

- (1) 1月の調査では、発生面積は平年より少なく、発病程度は低かった。
- (2) 2月の気温はほぼ平年並、降水量は少ないと予想されるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病は22°C前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。
- (3) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) すすかび病

予 想 発生量：少(中央部)

根 抱

- (1) 1月の調査では、発生面積は平年より少なく、発病程度は低かった。
- (2) 2月の気温はほぼ平年並、降水量は少ないと予想されるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病は25°C前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。
- (3) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) 黄化葉巻病

予 想 発生量：多(中央部)

根 抱

- (1) 1月の調査では、発生面積は平年より多く、発病程度は高かった。
- (2) 2月の気温はほぼ平年並と予想されていることや、例年、2月はいずれの地域でも1月と同程度の発生が続く傾向にあることから、いずれの地域でも現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋却などにより処分する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部)

根 抱

- (1) 1月の調査では、発生面積は平年より多く、発病程度は高かった。
- (2) 例年、2月以降に本虫の密度が上昇する傾向が見られることから、既発ほ場を中心
に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。ま
た、天敵や粘着トラップの利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ(こうち農業ネット)<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病害虫防除指針 etc.)